

# 伝えたいこと

## 末永く地域の発展をはかるためには

工場誘致や娯楽施設の建設、外部資本を導入した地域開発は残念ながら一時的な地域経済の活性化に終わる場合が多々あります。

末永く地域の発展をめざすには、地域の資源を活用した地域の活力を高め続ける仕組みをつくる必要があります。これが「エリアケイパビリティ」です。

## 環境保全と地域開発の両立

私たちは、環境保全と地域開発や活性化を一体化して行なうべきであると考えます。開発や活性化が必要な地域では、多くの場合まずは生活を守ることが最優先であり、環境を守る活動はなかなかできないからです。開発と保全を一体化してすすめ、お金だけではられない自立した地域社会をつくることができれば、それが地球規模の環境問題をも解く鍵になるでしょう。

### こんなことをしています

**愛** 知県西尾市では、東幡豆漁協と環境教育活動を進めています。

**沖** 縄島の石垣島では、観光と漁業や畜産など様々な産業を関係づけ、保全と地域振興の両立を目指しています。

**タ** イのラヨーンでは、富山県水見市の伝統漁法である定置網が導入され、新たな資源利用と資源管理のかたちが動き始めました。

**フ** ィリピンのパナイ島のバタン湾では、静岡県・浜名湖のクルマエビの放流の手法が導入されつつあります。



石垣島。高校生への環境教室



タイ。村張り定置網の導入

# Project Members

プロジェクトリーダー 石川 智士 総合地球環境学研究所 准教授  
住民視点での資源利用の現状と課題について、自然科学的側面と社会的側面からとらえる研究を進めています。

## 研究室メンバー

岡本 侑樹 プロジェクト研究員  
渡辺 一生 プロジェクト研究員  
武藤 望生 プロジェクト研究推進支援員  
柿岡 諒 プロジェクト研究推進支援員  
本間 咲来 プロジェクト研究推進支援員  
木村 文子 事務補佐員

## おもな所外メンバー

河野 泰之 京都大学東南アジア研究所  
黒倉 壽 東京大学大学院農学生命科学研究科  
有元 貴文 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科  
宮本 佳則 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科  
山田 吉彦 東海大学海洋学部  
武藤 文人 東海大学海洋学部  
吉川 尚 東海大学海洋学部  
川田 牧人 成城大学文学部  
松岡 達郎 鹿児島大学水産学部  
江幡 恵吾 鹿児島大学水産学部  
宮田 勉 (独) 水産総合研究センター中央水産研究所  
TUNKIJJANUKIJ, Suriyan カセサート大学水産学部  
KAEWNERN, Methee カセサート大学水産学部  
MUNPRASIT, Ratana タイ水産局中部海域海洋資源研究開発局  
MANAJIT, Nopporn 東南アジア漁業開発センター訓練部局  
ALTAMIRANO, Jon P. 東南アジア漁業開発センター養殖部局  
BABARAN, Ricardo フィリピン大学ビサヤ校  
FERRER, Alice J. G. フィリピン大学ビサヤ校  
PRIMAVERA, Yasmin ア克蘭州立大学

プロジェクトでは、国内の12大学・研究機関、タイのカセサート大学およびフィリピンのフィリピン大学ビサヤ校とア克蘭州立大学に加え、西尾市役所、東幡豆漁協、石垣市役所、八重山青年会議所、タイ水産局ならびに東南アジア漁業開発センター、さらにはタイの定置網漁業者グループやフィリピンの漁民組織などの住民組織と連携して研究を進めています。

## Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia 東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティの向上



総合地球環境学研究所 研究部 第6研究室  
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 457 番地 4  
tel 075-707-2331 fax 075-707-2507  
<http://www.chikyuu.ac.jp/CAPABILITY/>



東南アジア沿岸域における  
エリアケイパビリティの向上  
プロジェクト  
Ver. 1

# Coastal Area Capability Enhancement in Southeast Asia



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
総合地球環境学研究所

# 私たちの考え

## 地域から地球環境を見直す

近年、地球規模の環境問題が山積し、その解決が切実に求められています。しかし、個々人が地球規模の問題を考え、それに立ち向かうのは、容易ではありません。では、みなさんの身近な環境についてはいかがでしょうか？

私たちは、地域の範囲での問題解決を積み重ねることで、地球規模の問題がおのずと解決するアプローチについて研究しています。

## エリアケイパビリティの提唱

地域社会は、本来その地域の人々が主体的・継続的に未来を築いていくべきでしょう。そうでなければ、経済面と環境保全の面で、複雑な問題を抱えることとなります。私たちは、地域のよりよい未来像の実現に必要な要素を、「エリアケイパビリティ（地域の発展可能性）」と呼んでいます。

## おもな調査地と

### 研究・活動内容

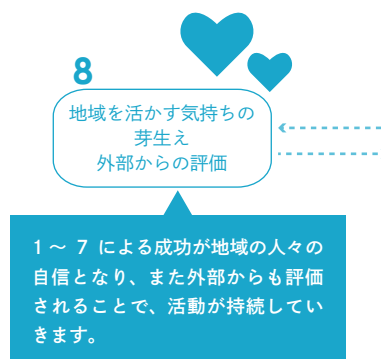


# What's Area-Capability?

## エリアケイパビリティ

地域が持続的に発展するための地域資源の活用のしかた

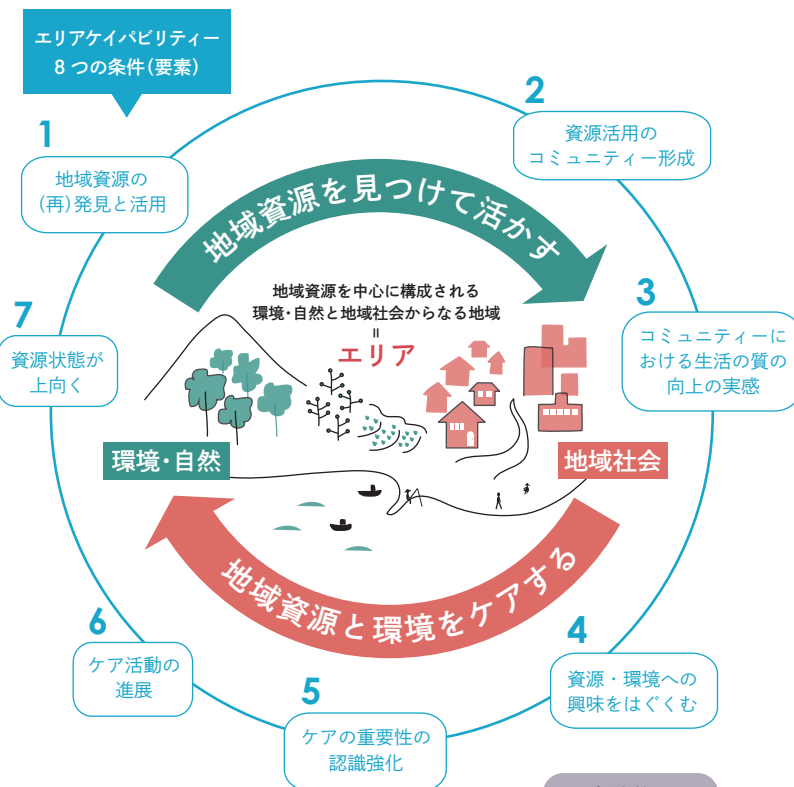
エリアケイパビリティで整理した地域開発(振興)の8つの条件。大事なポイントとともにご紹介します。



## Point 1

### 地域資源を見つけて活かす

地域資源とは、地域の自然や文化と調和した、その土地独特の天然資源や文化です。温泉や観光資源はわかりやすい例ですが、考え方・見方を変えればどの地域にも必ず地域資源があるはず。大切なのは、その資源を地域のコミュニティで活用していくこと。特定のだけかが収益をあげるのではなく、その地域に地域資源を活用する新たなコミュニティをつくれば、長期的な地域活性化が実現できます。



## Point 2

### 地域資源と環境をケアする

地域資源を末永く活用するには、資源を「管理」するのではなく、その資源とまわりの環境について考え、見守っていかなければいけません。このように資源や環境を気遣い、観察・手当てすることを、私たちは「ケア」と呼んでいます。ケアをすすめていくためには、地域資源や環境への興味と理解をはぐくみ、ケアが資源状態の向上へとつながることを、コミュニティのみなが実感することが必要です。

## Point 3

### 地域住民・専門家・行政の協働

コミュニティ（地域住民）が活動を継続していくためには、専門家と行政がコミュニティと協働していくことが重要です。外部からの客観的な検証・評価は、科学的にも信頼度の高いよりよい活動システムを作りあげていけるだけでなく、コミュニティメンバーの自負の高まりにもつながります。

